飯南高校

第２回　学校活性化協議会　議事概要

日　　時	令和２年１１月３０日（月）１５：００～１７：００
場　　所	三重県立飯南高等学校会議室
出 席 者 (敬称略)	土方　清裕（三重県立飯南高校　校長)、　中村　誠（三重県立飯南高等学校ＰＴＡ 会長)、 村田　佳之（松阪市教育委員会　次長)、　中村　元亮(松阪市立飯南中学校　校長)、 森井　義和(松阪市立飯高中学校　校長)、　藤本　伸一(松阪市立中部中学校　校長)、 高橋　克良(同窓会長・応援団長)、津村　尚美　(三重県教育委員会事務局教育政策課)、 岩崎　新一郎　(三重県教育委員会事務局高校教育課)、飯南高校教職員５名
議　　事	（1）「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型)」について （2）令和２年度飯南高等学校活性化プランの進捗状況について （3）保護者の転住を伴わない県外からの入学志願制度について （4）コミュニティ・スクールについて （5）２０２０高校生地域創造サミットについて （6）その他

議事概要	（1）「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」について ・10 月末現在の取組報告 ・リスクのある中でインターンシップを受け入れてもらったことは、生徒にとってとても助かった。論理的に構成された良い発表が多くあった。 ・新聞記事等について ・文化祭でも地域の方の応援（竹灯籠、招き猫、打ち上げ花火）があり、生徒が地域の方と繋がって自走した活動ができた。第２回フィールドワークの成果物は、レベルの高いものとなった。このベースの一つとなっているのは、「日本一を考える会」を生徒が企画して実施したこと。この経験から、生徒も自走して行動できることができたのではないか。 ・高田短期大学と提携を結び、保育士志望の生徒に対して直接助言をいただいた。教員ではできない、プロでないとできないことを指導いただき、生徒に刺激を与えていきたい。 ・学校外の方が本気で伴走すると、生徒が劇的に変わる瞬間がある。昨年度の「空き家片付けプロジェクト」も土日にかかわらず付き合ってもらったことが大きい。また、学校が本気というところも示していかなければならない。 （2）令和２年度飯南高等学校活性化プランの進捗状況について ・今年度は地域課題に関するテーマの生徒は５名程度。 ・介護福祉系列で地域に関わるテーマを取り入れての活動「看板プロジェクト」が進んでいる。 ・いいなんゼミ発表会については現在詰めているところ。コロナ対応を考えると、産文と学校等を使った分散会場で行うことを想定している。連携中学校に対してどのように見てもらうかについても調整中。 ・職員研修についてはこの状況であるため、対面ではなくオンラインでもう１回開催を検討している。 ・進学指導については、２学期から放課後を活用して補習や模試を実施している段階。 ・Youtube を使用した PR についてはまだ実施できていないため今後の課題。 ・令和２年度進路状況(速報) ・今年度はコロナの関係もあり、製薬会社への採用が多い。生徒・保護者からの希望も多かった。 ・進学は名古屋への OC が行きづらかったこともあり、内向きなところがある。競争が県内で起こったところもある。三重短期大学は近年ではなかった公立短大合格となった。これまでプレゼンを３年間で経験してきたところが、他校との差になったのではないかと考えられる。 ・高等学校進学希望状況 ・今年の中３生の人数は例年より大きく減少しているが、高校定数の枠はそれほど減少していないので、本校としては厳しい状況にある。中学校から評価は年々上がっているが、松阪地区の他校で昨年度大きな定員割れがあったため、これらの状況を踏まえた進学希望になるだろう。 （3）保護者の転住を伴わない県外からの入学志願制度について ・地域みらい留学での PR 活動を行ったが、今年度はコロナの状況によりオンラインでの開催となった。偶然の出会いが少なく、他校に比べて不利な状況になったと感じている。教育カリキュラムと部活動について前面に PR した今年度については、教育関係者の方々からは高評価をいただいている。 ・保護者は寮等の生活環境について見ているところが傾向としてある。現状でその部分は本校では弱いところなので、次年度は２軒の下宿先をもっと前面に出していければと反省している。 ・生徒の発表はとても良かった。それだけに、初参戦でオンラインでは良さが伝わりきらなかったのかも知れない。 ・プラットフォームからは本当に評価されていて、本校が実績０という現状は大きな課題となっているようだ。 ・振興局や住民協議会等の支援もあり、下宿運営連絡会を組織として作っていただいた。 ・中３生は現状希望がない。中２生は大阪から希望があり、高校生活入門講座への参加もあった。下宿先を実際に見ていただき、ぜひ希望を前向きに検討したいと考えている生徒がいる。 ・今後の卒業者数推移を考えると、ここ数年が踏ん張りどころ。３年後以降グンと減ったとき、どうするのかという議論が起こるだろう。そのため県外募集は、ものすごく意味のあるものだと考えている。そして下宿先を確実に増やしていく必要もある。増えれば今後、さらに県外募集の生徒数を増やしたいと考えているので、さらなる下宿先をお願いしたい。 （4）コミュニティ・スクールについて

	・飯南中は来年度スタートだったが、今年度からスタートした。本校もこれに令和４年度から加わることで、小中高のコミュニティ・スクールの流れができる。 ・定義は「学校運営協議会を設置している学校」ということ。学校関係者評価委員会から学校運営協議会への発展のイメージで、地域と一緒に学校を創っていく。学校以外の社会人が入るとプラスになるようなところをドンドンやっていこうという流れ。 ・高校における学校運営協議会・地域学校協働活動の一体的推進イメージ ・「高校と地域をつなぐ人材の在り方研究会」第４回の議論イメージ図を見ると、本校は文科省事業をやっていることで、考え方としては実現できている状況だと言える。本校では活性化協議会が学校運営協議会に近く、これをベースにしてコンソーシアムもできている。そのため、この協議会を母体として学校運営協議会のメンバーが作れるのではないか。 ・担当は高校教育課なので、今後のことは担当と相談の上で検討していく。 **（５）２０２０高校生地域創造サミットについて→連絡事項へ** ・今年度は飯南地域で開催。初日はフィールドワーク、その後はオンラインで。フィールドワーク先は振興局の力を借りながら８箇所確保できた。 **（６）地元企業との交流会（12/9(水)）** ・昨年度のような形で１９社がブースを作り、１人あたり５社の話を聞く。昨年度好評で、今年度は飯高中２年生も企業の話を聞く。